

環境三学会合同シンポジウム「Nature Positive: 実現に向けた方策の検討」

日時：2024年7月6日（土）13:00~15:10

場所：オンライン zoom 使用

申込みフォーム：

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_ICIGnljoQzSFSBtXfhjWpQ

※申込者には参加用 URL が自動返信されます。

※ご登録期限は設けておりませんが、お早目のご登録をお願いいたします。

概要

生物多様性や自然資本の観点から、社会・経済活動による自然への負の影響を抑え、自然生態系の回復を目指す概念として、nature positive という用語が用いられるようになってきた。2022年の生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で採択された「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」では、生物多様性の観点から2030年までに陸と海の30%以上を保全する「30by30目標」等の目標を定めたが、これも nature positive に向けた手段の一つといえる。しかし、温室効果ガス排出量削減等と比べ、nature positive 実現には、問題固有の課題がある。そこで、本シンポジウムでは、日本国内の nature positive 実現を目指す上での課題とそれを乗り越える方策に関して、環境関連の三学会の異なる学問分野から研究成果を共有し、検討する。

プログラム（敬称略、タイトルはすべて仮題）

- 13:00-13:05 開会挨拶：竹内 憲司（京都大学、環境経済・政策学会会長）
- 13:05-13:30 基調講演「生物多様性の科学で挑むネイチャーポジティブの事例づくり」
石川 奏太（サンリット・シードリングス代表取締役）
- 13:30-13:45 講演1「なぜネイチャーポジティブの動向に素直に喜べないのか？」
松村 正治（中ヶ谷戸オフィス、環境社会学会）
- 13:45-14:00 講演2「ネイチャーポジティブに向けた法政策的対応と課題」
阿久津 圭史（株式会社日本政策投資銀行設備投資研究所、環境法政策学会）
- 14:00-14:15 講演3「コミュニティから紡ぐ Nature Positive—豪州ランドケアの実践から考える」
籠橋 一輝（南山大学国際教養学部、環境経済・政策学会）
- 14:15-15:00 パネルディスカッション
登壇者上記4名 + ファシリテータ 梅津 千恵子（東北公益文科大学公益学部・京都大学名誉教授）
- 15:00-15:10 閉会挨拶：堀川 三郎（法政大学、環境社会学会会長）

お問い合わせ：亀山康子氏（東京大学、環境経済・政策学会）

ykame@edu.k.u-tokyo.ac.jp